
即興物語 - 光あれ -

柳沢紀雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

即興物語 - 光あれ -

【Nコード】

N5133F

【作者名】

柳沢紀雪

【あらすじ】

鏡の姿よりさき。世界の深淵へと誘われた彼。そこに見たのは深く沈み込む闇。彼は祈る。消えてゆく彼女を思って。世界に光りあれ。

（前書き）

一応”鏡の姿”からの繋ぎです。

酷く鈍く重苦しいものが頭の上にそびえている。眠りから覚めようとすると私の意識はそう知覚していた。

鏡に映った姿。それははたして私のものだったのだろうか。

道行く私の目の前に突如として出現した鏡は光を放ち、私はその光の奥へと飲み込まれていった。

おそらく私は気を失ったのだろう。そうでなければ今横たわっているこの状況を説明することは出来ない。

とても冷たい感触、まるで石造りの床に寝そべっている感触だ。そして、暗い。まぶたを開いた感触はするにもかかわらず、そこに映るものは目を閉じた時と同じ、一切が闇に沈み込み自分自身の身体がここにあるのかすら曖昧になってしまふ。

私に問いかけたのはいったい誰だったのだろうか。『見せてあげる。真実の君を。この世界が何で出来ているのかを・・・』そんな言葉だった。

ならば私は何を見せられるのだろうか。それとも真実の私とは、この世界を構成する要素とはこのような深く沈み込んだ闇であると言っことなのだろうか。

『君はまだ目覚めていないだけ。目を開けているふりをしているだけ。怖がらないで心を開いて・・・』

また、あの声だ。耳を澄ますが、その声が耳から入ってきているようには感じられない。まるで、頭の中に誰かが入り込んで言葉を発しているようなそんな不気味な感触すら感じてしまふ。

いったい何なのだ、この状況は！心を開くとはなにを今更。私を勝手にこのようなところに連れてきて、あまつさえこのような深闇

のなかに閉じこめて。何がしたいというのだ！

『怖いのは分かるよ。うん、よく分かる。私もそうだったから。だけれど大丈夫。君なら私みたいにはならないよ。だから、お願い…心を開いて…。』

頭の中に沸き立っていたノイズが消えた。彼女は去っていったしまったのか。ならば、私はいったいどうすればよいのか。

気がつけばさっきまで私の足下にあった石の感触は消え去っていた。私はいま何処に立っているのか。足を伸ばそうとしてもその先には何も感じない、手を伸ばしても行き着くものは虚空だけだ。それどころか手足を動かしているという感触さえも今では曖昧になっ
てしまう。

そうか……。

私はそこで理解してしまった。彼女もまたこうして自らを失ってしまったのか。そして、最後に残った意識のみを使って私に呼びかけた。しかし、彼女は消えてしまった。最後に残った意識さえも闇へと溶け込んでしまったのか。

ああ、なんてことを。私が心を開き世界に形を与えてさえいればともすれば彼女を助けられていたのかもしれない。

そして、私もいつしか彼女のようにこの闇の世界に溶け込んでしまうと言っのか。

何という無慈悲。何という理不尽か。

ならば私は祈ろう。生来無神論者であった私が祈るべき神はこの世界にはいないだろう。ならば、せめて彼女に祈ろう。彼女が無事であるように。再びその声を私の下へと届けてくれるように。

せめて贖罪を祈ろう。神よ…、無慈悲で傲慢かつ自分勝手であるこの世界の神よ。あなたは我々をお作りになり、そして捨て去ったのか。あなたは人に何の恵みも与えてはくださらなかった。あなた

の忠実な神子である聖者にこの世の全ての罪を背負わせ命を奪った。
お助けくださいと願う人々をあなたはどれだけ見捨ててきたのか。
だが、私は祈ろう。せめて願いだけでも届くように。届いた願い
が叶うとは私も思っていない。だが、せめて彼女にこの祈りを届け
てくれ。

- 世界に光りあれ -

e n d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5133f/>

即興物語 - 光あれ -

2010年10月16日23時54分発行